

Ⅲ-③

石器はどのようにして作られたのだろうか？

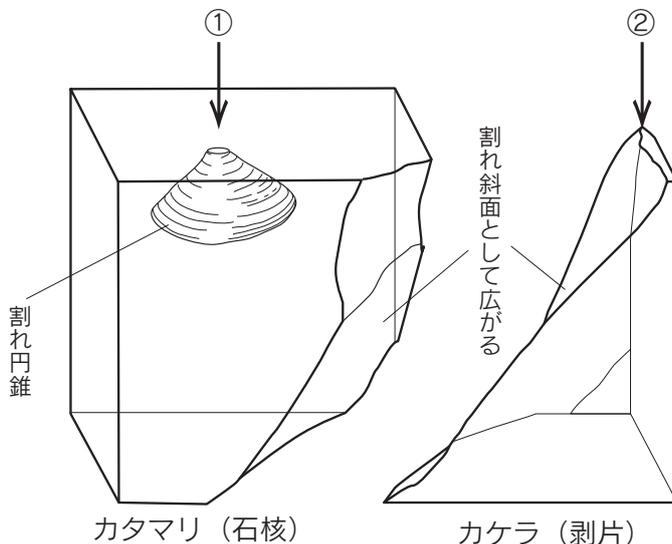
石器の作り方には大きく2つの方法があります。一つは材料となる石を打ち割って作る打製の方法で、もう一つは石を磨いて作る磨製の方法です。世界では、磨製の技術は1万年以上前にはないとされていますが、日本では約3万年前に石斧の刃先を磨く技術として使われていました。しかし、岩宿（旧石器）時代のほとんどの石器はやはり打ち割って作られた打製石器です。石を打ち割って目的となる形の石器を作るには、石がどのように割れるかをよく知っていなければなりません。ただむやみに石を叩いても思うようには割れないのです。石を叩くとその部分からまっすぐ割れるのではなく、約60度の角度で曲って割れる決まりごと（法則）があり、それをうまく使って石器を作っていました。



●打製石器を作る
石を叩き割って石器を作る。



●磨製石器を作る
石を磨いて形を整えて石器を作る。



●石の割れ方の決まりごと

- ①中央を叩くと叩いた部分から全方向に60度曲って割れが伝わるので、富士山のような形をした円錐形に割れが広がる。
- ②へりに近い部分を叩くと、一方の割れが広がってカタマリ(石核)からカケラ(剥片)を割り取ることができる。